

# プロジェクトマネジメント学会四国支部報告

板倉 宏昭\*

## Activity Report of Shikoku Branch of The Society of Project Management Hiroaki Itakura

### 1. 四国支部研究会の報告

プロジェクトマネジメント学会四国支部では、本年度も年4回の研究会を計画しており、第1回研究会を5月12日に、第2回研究会を7月18日に開催いたしました。

#### 第1回研究会

日時：5月12日(月) 14:00~16:10

場所：香川大学幸町キャンパス研究交流棟5F

共催：香川大学地域共同研究センター技術交流協会  
プロジェクトマネジメント研究会

講演：「エクセル利用のプロジェクト・データ・マネジメント」

講師：徳島文理大学教授 小山 健氏

REVO株式会社 横井 恵利氏

講演：「TOCによる経営改革（生産性改善編）」

講師：株式会社五星 神原 孝行氏

「エクセル利用のプロジェクト・データ・マネジメント」

PMBOK（プロジェクトマネジメント知識体系ガイド）の多くのマネジメント、例えば、タイム・マネジメント、コスト・マネジメント、品質マネジメント、リスク・マネジメント、では、定量的な管理が必要である。これらの管理を容易に行う手法として、例えば、パレート図、ヒストグラムなどのいわゆるQC七つ道具、統計的方法、多くのイベントの組み合わせた場合の総合的な見積もりをするためのシミュレーション手法などがある。エクセルを利用してこれらの手法をうまく活用できるよう、具体的な操作を含む実践的な内容であった。

続いて、株式会社五星の神原氏には、2月に行われた年次大会でも発表していただき、会員の方々からももう少し詳しい話をお聞きしたいとのリクエストにお答えいただきました。

「TOCによる経営改革（生産性改善編）」

株式会社五星では、現在、思考プロセスやCCPMなど、制約条件の理論（TOC）の考え方を基軸とした生産性改善を展開中。このことにより、総労働時間の短縮と社員一人当たりのスループットの増加を合わせて、過去最低期の約2倍の生産性を実現しようというもの。



研究会の様子

四国支部の会員の方には、40名と大勢の方に参加していただき、どちらの講演も、活発な質疑応答、意見交換が行われました。

## 第2回研究会

日時：7月18日(金) 14:00~16:10

場所：香川大学工学部キャンパス

知的財産・社会連携センター3Fセミナー室

共催：香川大学知的財産・社会連携センター

技術交流協力会プロジェクトマネジメント研究会

講演：「内部統制とは」

講師：NECシステムテクノロジー株式会社

田中 正樹氏

講演：「統合マネジメントシステム構築による全体最適」

講師：元富士通インフォテック情報系SE

現ダイナックス高松契約コンサルタント

横井 新次郎氏

### 「内部統制とは」

上場企業における内部統制は、すでに運用・評価段階に入っており、来年3月期の決算から、内部統制報告書の提出、公認会計士によるチェックへと進んでいる。

日本版SOX法(実施基準)が定義する「内部統制」とは、企業等の4つの目的の達成のために、企業内のすべての者によって遂行されるプロセスであり、6つの基本的要素から構成される。

4つの目的は、

①業務の有効性及び効率性、②財務報告の信頼性、③事業活動に関わる法令等の遵守、④資産の保全、である。

6つの基本的要素は、①統制環境、②リスクの評価と対応、③統制活動、④情報と伝達、⑤モニタリング、④資産の保全、である。

内部統制について最新の動向を踏まえ、整理された内容であった。

### 「統合マネジメントシステム構築による全体最適」

統合マネジメントシステムとは、ISO 9001(QMS)・ISO 14001(EMS)・ISO 27001(ISMS)・

JIS Q 15001(PMS)等のマネジメントシステムを、管理手順の統一化・総合化・簡素化を経て、統合運用

することで、効率化とスピードアップを図ることを意図したマネジメントシステムである。

これまでのISO認定取得の問題点として、

①各MS間の方針・目標間に整合性がない

②各MS毎に管理体制がある

③文書・記録体系がいくつもある

④内部監査・外部審査が多い

⑤マネジメントレビューが多い

⑥各規格に対応する手順間で矛盾がある などが、業務効率の低下と運用コストの増大が指摘されている。

ISO MSの特徴は、PDCAサイクルを共通化してひとつのマネジメントシステムとすることにある。

第2回研究科も、40名の会員の方々に参加していただき、どちらの講演も、活発な質疑応答、意見交換が行われました。



活発な意見交換

## 2. 今年度の活動予定

今年度は、引き続き、残り2回の研究会と年次大会を実施する予定です。

## 第3回研究会

日時：10月16日(木) 14:00~16:10

場所：香川大学工学部キャンパス

社会連携・知的財産センター

講演：「システム開発技術を通して、社会システムを考える ～非情報系の学生に、ソフトウェア開発技術を通じて伝えたいこと～」

講師：筑波大学大学院ビジネス科学研究科 准教授  
木野 泰伸氏

内容：

ソフトウェアの開発は、建築など他のプロジェクトに比べて、作成している成果物の中身や進捗が目に見えにくいという特性があります。この特性から発生する課題を解決するために、現在まで多くの仕組みや技術が考案されてきました。

これらの仕組みや技術は、コンピュータシステム(ソフトウェア)の開発だけでなく、経済システム、金融システム、法体系、政治システム、国家、企業や組織、家庭など、多くの社会システムに応用することが可能です。そのため、MBA など非情報系の学生、さらには、社会システムに関わる全ての人に、コンピュータシステム(ソフトウェア)の開発から生まれてきた考え方や技術のエッセンスを伝えることは大切であり、また学んだ人にとっても役立つものであると考えています。今回は、エッセンスとして何を、どのように伝えるかについて議論させていただきたいと考えています。

講演：「スケジュール遅延を防ぐためのリスクマネジメントの活用」

講師：山口大学大学院技術経営研究科 准教授  
PM学会中国支部事務局  
大島 直樹氏

内容：

プロジェクトのスケジュール遅延を防ぐためには、スケジュール・マネジメントをきっちり行うことが不可欠です。スケジュール遅延を引き起こすリスクを識別し、プロジェクト・リスク・マネジメントとスケジュール管理を統合するためのツールとスキルとして、B-C-F 分析について考察します。

プロジェクトマネジメント・ツールボックス

(ISBN-10: 4306011461) では、B-C-F 分析は中規模以上のプロジェクトにおける進捗管理のためのツールとして紹介されています。プロジェクトスケジュー

ールのベースライン(B)と現状(C)および将来(F)の予測を比較する分析手法です。将来スケジュールを予測するためには、リスク分析においてリスク要因がアクティビティ所要期間に与える影響を評価し、リスクマネジメント計画において識別されていることが重要です。スケジュール遅延の真の原因を深く理解し、プロジェクトスケジュールのプロアクティブなマネジメントの実現に結びつくものと期待できます。

日時：12月3日(水) 15:30~17:30

場所：香川大学幸町キャンパス

講演：「PMの動向-新たな国際的動き-」

講師：日本アイ・ビー・エム(株)技術顧問、  
東京大学大学院工学系研究科特任教授  
富永 章氏

内容：

現在PMの国際標準化(ISO化)が行われており、モダンPMに関わるグローバルな動きは活発になっている。9月にアンカレッジで行われたPM国際会議Pr oMAC2008の内容も反映し、最近のPM動向や講師が関わる活動の成果などについてカバーする予定。

第3回研究会には、中国支部事務局の大島先生にご講演いただく予定です。これを機に支部同士の交流も深められれば、と期待しております。

また、引き続き、ITC団体(ITC四国、ITCかがわ)やISOネットワーク、香川県情報システムサービス協議会、香川大学知的財産・社会連携センターなどの団体との交流を深め、幅広い方に研究会への参加を呼び掛け、新規会員の開拓に努めたいと考えています。

四国支部お問い合わせ先

事務局：香川大学大学院地域マネジメント研究科  
板倉研究室

\*\*事務局(板倉研究室)が移転しました\*\*

香川大学幸町南(経済学部)キャンパス内  
(旧)2号館3階 → (新)7号館2階  
〒760-8523 香川県高松市幸町2-1

TEL&FAX 087-832-1872

電子メール： nakayama@italabo.com

ホームページ：

<http://www.italabo.com/PMshikoku/>

---

\* 香川大学大学院地域マネジメント研究科